Japan Society of Obstetrics and Gynecology

P1-17-6 市中病院・診療所における妊娠糖尿病（旧診断基準）のスクリーニング法と血糖管理および妊娠糖尿病診断基準変更に対するアンケート調査

広島市立
濱崎　晶，三田尾賢，秋本由美子，本田　裕，谷本博利，永井宣隆

【目的】市中病院あるいは診療所における旧診断基準による妊娠糖尿病（GDM）の管理の実際と妊娠糖尿病診断基準変更に対する感想を知るためにアンケート調査を行った.【方法】県内の分娩を取り扱う主な病院および診療所に対して電話にて調査の依頼を行い，アンケート用紙を郵送した．アンケート内容は各施設で行っているスクリーニング法，耐糖能異常妊婦に対する加療内容，GDMの新基準に関する質問である．対象は，病院10施設と診療所12施設である.【成績】1. スクリーニング法. 1）妊娠初期：すべての施設で随時血糖　2）妊娠中期：病院では，随時血糖8施設，グルコースチャレンジテスト（GCT）1施設，75g経口糖負荷試験（OGTT）1施設．診療所では随時血糖12施設であった．2. 妊娠中の血糖管理では，1）1点異常例：すべての施設で産科管理 2)GDM例：病院では血糖により内科紹介4施設，ただちに内科紹介5施設，産科管理1施設．医院では血糖により内科紹介3施設，ただちに総合病院に紹介9施設であった．3）overt diabetes in pregnancy例：病院では内科紹介9施設，産科管理1施設．医院ではただちに総合病院に紹介12施設であった．3. 新基準の1点以上を満たした場合にGDMと診断するとの内容について肯定回答は，病院では5施設，医院では4施設であった.【結論】1. スクリーニング検査は，妊娠中期でGCTではなく随時血糖が実施されており産婦人科診療ガイドライン産科編2008年とは異なっていた. 2. 旧基準で1点異常例の血糖管理の主体は産科で行われ，その管理は栄養指導が主である．新診断基準では1点異常例がGDMと診断されるため，GDMに対する管理指針が待たれる.

P1-17-7 新基準妊娠糖尿病のリスク因子と母体体重管理からみた周産期予後

総合母子保健センター愛育病院
中林　靖，竹田善治，川名有紀子，松井大輔，中山敏男，湯　暁暉，檜垣　博，鶴賀香弥，中山摂子，坂元秀樹，安達知子，中林正雄

【目的】新基準妊娠糖尿病（新GDM）のリスク因子と母体体重管理からみた周産期予後について検討した.【方法】2007～2009年の4,921分娩例を対象とし，初期随時血糖と中期50gGCTによるスクリーニングと，75gOGTTにより新GDMを診断し，A）新GDMのリスク因子，B）従来のGDM（旧GDM）と，新GDMから旧GDMを除いた群（追加GDM）の臨床背景について検討した．旧GDMは診断時より入院栄養指導を，追加GDMは外来栄養指導を行った．母子の周産期予後について同時期の耐糖能正常妊婦1,559例（C群）と比較した.【成績】A）新GDMは128例（2.6%）で，リスク因子は非妊時BMI 25.0以上，高年齢(35歳以上)，DM家族歴であった．新GDMは，BMI 25未満と以上の2.4%と8.1%，35歳未満と以上の1.9%と3.7%，DM家族歴有と無の5.2%と2.2%に認められた．B）旧GDMは33例で明らかな糖尿病はなかった．追加GDMと旧GDMに年齢，非妊時BMI，DM家族歴に差はなかったが，3項目ともC群より有意（P<0.05）に高かった．出生児体重3,500g以上，帝王切開率は両群に差を認めなかったが，いずれもC群より有意に高率であった．分娩週数，新生児合併症（黄疸，TTN，RDS）は3群間で差はなく，平均母体体重増加量（kg）は，旧GDM7.2，追加GDM 9.4，C群10.8で3群間に有意差を認めた.【結論】新GDMの臨床背景，周産期予後は旧GDMと同様であった．新・旧GDMへの栄養指導による適切な体重管理は新生児合併症予防に有用なことが示唆された.

P1-17-8 当科における20年間の初産妊婦の耐糖能変化

広島市立[1]，慶應大[2]，村上産婦人科[3]
三田尾賢[1]，濱崎　晶[1]，秋本由美子[1]，本田　裕[1]，谷本博利[1]，永井宣隆[1]，宮越　敬[2]，村上朋弘[3]

【目的】当科では，妊娠糖尿病（GDM）スクリーニングとして，妊娠初期の随時血糖と妊娠後期の75g経口糖負荷試験（75gOGTT）を行っている．今回当科における20年間の75gOGTTより妊娠中の耐糖能の推移と妊娠糖尿病診断基準（2010年7月）でのGDM頻度を比較検討したので報告する.【方法】1990年から2009年までの期間で分娩し，妊娠28週～32週に妊婦の同意を得た上で75gOGTTを施行した初産婦4739例を対象とし，5年毎にA群(1263例)，B群(1448例)，C群(1036例)，D群（992例）の4群に分け，身体所見，75gOGTT結果，新生児事象を比較検討した.【成績】1）A群，B群，C群，D群において，妊婦の平均年齢(歳)は26.1±3.9，26.6±4.0，27.4±4.4，27.3±5.2．妊娠前Body Mass Index (BMI)は20.5±2.9，20.3±2.6，20.8±3.6，21.5±3.9であった．2)75gOGTTの血糖値(mg/dl)は空腹時75.1±6.6，73.5±5.8，74.7±5.4，76.8±7.1．30分後120.1±18.3，118.0±17.7，123.6±18.8，124.0±19.6．1時間後は121.0±26.4，118.1±26.4，124.4±26.6，124.2±27.5．2時間後は103.2±19.2，103.6±18.6，110.0±20.6，111.5±20.8であった．またHOMAおよびLIについて検討したが，群間に差は認められなかった．3）GDM例は58例（4.5%），38例（2.6%），53例（5.1%），76例（7.7%）．新生児の出生時体重は3062±408g，3024±381g，3005±394g，2961±401gであった.【結論】75gOGTTでは各ポイントでの血糖値は，B群，A群，C群，D群の順に高値であり，妊婦の年齢上昇とBMIの増加が影響していると考えられた．GDM例が増加傾向にあり，D群では7.7%と高率になることから，GDMスクリーニング検査とその後の管理の必要性が示唆された.

NII-Electronic Library Service